

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.10 No.3

河北潟湖沼研究所は10周年を迎えました



創立10周年記念式典の様子（大串龍一金沢大学名誉教授の講演）

NPO法人河北潟湖沼研究所は、今年10月14日をもちまして、創立10周年を迎えました（関連記事4P）。これまでご支援ご援助をいただいたみなさまに心より御礼申し上げます。とくに友の会の皆様には、事務局として広報や活動参加についての十分なフォローができていないにもかかわらず、とても暖かく見守っていただき感謝しております。

今後も、さまざまな活動を展開しながら、

友の会の方々にもご参加いただける企画にも取り組んでいきたいと思っております。とりあえず、2005年の最初の企画としては、第40回河北潟自然観察会を、2月6日午前9:00より金沢市こなん水辺公園を集合場所に開催致します。冬の河北潟はとても神秘的です。どうぞふるってご参加下さい。

今後とも河北潟湖沼研究所をよろしく願います。（友の会事務局 高橋久）

カゴちゃん
ショウくん かほくがたナルドレン



河北潟の沿岸をって行った人々

今回は、政争に敗れたり、思想上の争いで罪びととして佐渡へ送られた著名な人々も挙げて見る。

彼らは海路で当地方の沖を通ったのか、陸路を通ったのか筆者は書物として見たことは無い。

親鸞(しんらん・1173～1262)

浄土真宗の開祖。浄土宗を興した法然(1133～1212)の弟子。1132年美作(みまさか・今の岡山県)の豪族の子として生れ、父を政争で殺された幼い法然は寺へ入った。比叡山で30年の厳しい修学ののち、念仏が信仰の根源と考え山を降り、京の町で新しい教えを広めた。

その2年前、親鸞は京との下級貴族の子として生れ、幼いうち比叡山に登り修行したが満たされず29歳のとき法然の弟子になる。既存の宗教団体、南都北嶺に弾圧を受け、1207年法然は四国に、親鸞は越後(上越市)に流罪となった。伝承によると親鸞が、琵琶湖を舟で渡ったとき、強風に遭い、近江八幡の沖にある琵琶湖最大の島、沖の島に一夜泊まり、敦賀を経て鯖江へ。手取川に着いたとき増水で船頭は渡ることを拒否。親鸞は紙に「南無阿弥陀仏」の六字の名号を書き、川へ流すと川は静まり、無事に対岸へ渡ることができた。「手取川渡しの名号」といって現在も残っているとか。その後、倶利伽羅峠を越え越中へ。上越には越中から舟で送られて来たとの言い伝えがある。親鸞は4年後に赦免されるが越後にとどまり、その後関東へ移り布教。1235年京都へ帰り弘長二年三条富小路善法坊で没。

伝承では陸路この地方を通ったらしい。

順徳天皇(じゅんとくてんのう・1197～1242)

後鳥羽天皇の第三王子。天皇になっても父後鳥羽上皇の院政下であったため、自ら親政を行うことなく、和歌や管弦などの芸術に傾倒した。承久三年(1221)上皇の鎌倉倒幕計画(承久の乱)に参画。乱の失敗で佐渡に配流。その地で没した。津幡町に残る伝説によると、天皇を乗せた船が内灘沖で難破し、砂丘へ乗り上げた。上陸地が王崎(かほく市大崎)。

砂丘を越え、潟の対岸の集落を指差し「あそこはどこじゃ」と指さし、お尋ねになったのが指江(かほく市指江さっせ)。潟の東へ回り、何年か過ごされたのが津幡町御門(みかど)。これも伝承であって書物としての記録を見たことは無いが地名の由来としては面白い。伝承では海路を通ったようだ。

世阿弥元清(ぜあみ もときよ・1363?～不詳・伝承では81歳で没)

室町時代の能(当時は猿楽といった)役者で能作家。父・観阿弥とともに能を大成した人。「高砂」「敦盛」「砧」「忠度」「井筒」などが代表作。足利義満に愛されたため諸大名も彼に競って贈物をした。貴族達との交流により、能はより洗練された芸術となった。後年、禅に傾倒し出家。嫡男元雅が観世太夫になった後も舞台上に立ち、後進を指導した。時の將軍足利義教(よしのり)は世阿弥の甥・音阿弥の芸風を愛し、世阿弥父子の有する地位を剥奪し、次々と音阿弥に恩恵を与えた。義教の意思で72歳の世阿弥は佐渡へ流された。74歳の永享八年(1436)まで在島したことは記録にあるが、その後帰京できたかは不明。没年不明。陸路か海路かは不明。

(河北潟歴史委員会 宮本眞晴)

大宮川のおオバン

水面に浮かぶ黒い鳥、オオバンがみられるポイントが河北潟の近くにありますが。オオバンといっても、どんな姿のどんな生きものか想像できない方もいるでしょう。とくに珍しいとか、河北潟を代表する鳥というわけではないのですが、12月の観察中に、おもしろい場面をみたので、そのときのことをお話します。

場所は、河北潟の南側に流入している大宮川の河口近く。大浦町と東蚊爪町の間にあり、いちばん川下の橋、天狗橋という橋よりは上流側です。12月9日に別の用事でこの川沿いを歩いたのですが、そのとき450mほどの範囲に35羽のオオバンがみられました。冬にこの付近の川沿いを歩くと、必ずと言っていいほどオオバンを見かけます。定期的に観察しているわけでもないのですが、確かではないのですが、一昨年よりは昨年、昨年よりは今年の方が、ここでみられるオオバンの数が増えたように思います。なんでこんなにオオバンがいるのだろうと思って、望遠鏡を用意して観察することにしました。不思議に思うのは、となりの金腐川や血の川ではオオバンをあまり見かけないことです。

観察は午前10時10分から10時50分におこないました。オオバンが10羽ほど群れているところから100mほど離れた場所に望遠鏡を設置。20倍の接眼レンズでみると、オオバンの細やかな動きを観察できました。どのオオバンもなにかしきりに食べており、水面で休んでいるのではありませんでした。頭から水の中につっこみ、1-3秒で水面にもどって、細長いものを数回くちばしで咬んで、飲み込み、またすぐに水中にもぐり、餌をくわえて水面上にあがって…、その繰り返しです。なにを食べているのかと思い、倍率をすこしあげてみると、水草を食べていることがわかりました。この付近の大宮川は、川幅が約40mから約60m、水辺にはヨシやマコモ、チクゴ



スズメノヒエがみられ、近年ではとくに水辺から川の中央付近までオオカナダモという沈水性の植物がたくさん生えています。

オオバンは、川の中にある大量のオオカナダモを大量に食べているのでした。10羽が10羽とも休むことなく、食べ続けていました。ときどきそばにいる個体どうしで、相手の口から奪いとろうとする動きもありました。でもしつこく追いかけて、実際に奪うことはなく、すぐに水の中にもぐって次に食べる水草を水の中からひっぱりあげてくるのでした。食べるのをやめるときといえば、人が近づいたときなど場所をかえるときだけです。10羽の群れより上流にいる21羽の群れも同じように食べているのがみられました。

休むことなくオオカナダモを食べ続けるオオバンを観察していると、オオカナダモがオオバンに姿を変えているかのように感じました。時間をかけて観察したのはこのときがはじめてで、実際オオバンがどれくらいこの場所に滞在しているかはわかりません。冬も枯れない南米原産の帰化植物であるオオカナダモがこの場所にたくさんあるから、オオバンがたくさんいるのかもしれない。

<オオバンについて(図鑑などを参考にしました)>
生息環境：北陸では留鳥または冬鳥。おもにヨシなどが生える湖、池、河川、水田に生息。特徴：大型のクイナ。成鳥は全身が黒く、嘴と額板はやや淡紅色のある白色。足指の両側に葉状のみずかきがある。生態：頻繁に潜水して水草などを採食する。食物は水生植物が多いが、小魚や昆虫、軟体動物なども食べる。草を重ねてつくった皿形の巣に5-10卵を

お知らせ

10周年記念パーティを開催

河北潟湖沼研究所10周年記念パーティが、11月14日に県農業総合研究センターのふれあいセンターを会場に開催されました。

来賓として、岩本秀雄内灘町町長、中川進内灘町町議会議長、松田久子元石川生協理事長、元参議院議員の岩本荘太氏らからご挨拶をいただき、また中国からは、中国科学院の濮培民氏、モンゴル自然再生運動代表のモンクバイヤー氏、同じくモンゴルトール川ウランバートルプロジェクトリーダー、ガッティマー氏を迎え、華やかなうちに会が進行しました。

午前中は来賓のご挨拶や第1回河北潟将来構想募集の表彰式がおこなわれました。アンサンブル河北潟の演奏と昼食を挟んで、大串龍一金沢大学名誉教授による講演、濮培民氏の研究報告、これまでの活動を振り返るスライド上映などがおこなわれました。



第39回河北潟自然観察会を開催

観察会が行われた12月5日はあいにくの雨でしたが、金沢市湊の河北潟野鳥観察舎から多くの水鳥を観察することができました。

マガモ、カルガモ、ヒドリガモなどのいつもの顔ぶれの他に、トモエガモやミコアイサなど普段あまりみることのできない野鳥も風

を避けて湖岸に寄っており、じっくりと観察することができました。

その他、猛禽類ではミサゴ、チュウヒ、オオタカなどが観察されました。観察会参加者の他にも、野鳥観察に訪れた方が複数があり、狭い観察舎のなかで和気あいあいとした雰囲気の良い観察会となりました。次回第



< 編集後記 >

先日、才田町の住民の方々が企画した水路の生きもの観察会に参加しました。こどもたちのとても元気な姿をみることができ、またたいへんおいしいスッポン鍋をごちそうになり、とても良い一日でした。今年もお世話になりました。どうぞ良いお年を。(T)

「かほくがた」 VOL.10 NO.3
2004年12月25日発行
発行所 河北潟湖沼研究所友の会
〒920-0051 金沢市二口町八58
河北潟湖沼研究所金沢事務局内
TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435